

2024.7-9

資産運用状況  
**Quarterly Report**

金属事業企業年金基金

## 用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%)=(実現損益+未収収益増減+評価損益増減)÷(元本平均残高+前期末未収収益+前期末評価損益)×100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22カ国の上場企業の株価指数で構成。

## 2024年度第2四半期運用状況

7月の株式市場は、国内では、円買い介入観測やトランプ前大統領の円安けん制発言から円高・ドル安に転じたことを受けて、自動車など輸出関連株を中心に下落しました。米国では、早期利下げ観測や経済のソフトランディングへの期待から上昇しました。8月は、国内では、米国の景気後退懸念の高まりや急速な円高・ドル安の進行など背景に市場心理が悪化し下落しましたが、米国では、早期利下げ観測の高まりや、経済のソフトランディング期待の高まりから上昇しました。9月は、国内では、円高が進行したこと等を背景に下落しましたが、米国は、経済の底堅さを示す景気指標が発表されたことや、FRBによる大幅利下げなどを受け景気のソフトランディング期待が一層高まったことを受け上昇しました。

一方、債券市場は、7月の国内10年国債利回りは1.0～1.1%のレンジで推移しました。米10年国債利回りは、米インフレ指標の減速を受け9月利下げ開始観測が強まったことで低下（価格は上昇）しました。8月は、労働市場軟化を示す指標などを受け、9月会合での利下げ開始がほぼ確実視され、米10年国債利回りは一時3.6%まで低下し、国内10年国債利回りもこれを受けて低下しました。9月は、国内外ともほぼ横ばいで推移しました。

なお、この間の為替市場は、日米金利差縮小への思惑から円高基調で推移し、円/ドルは160.86円から143.04円に、円/ユーロも172.41円から159.64円へそれぞれ円高に進み、マイナス寄与となりました。

このような市場環境の下、当基金の第2四半期における収益率は-1.06%となりました。また4月から9月末までの年度通期の収益率は1.99%となりました。

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率 (%)	8.44	3.08	-1.06			1.99
収益額 (千円)	410,200	166,527	-59,039			107,487
期末運用資産額(千円)	5,384,784	5,568,989	5,479,306			5,479,306

(注) 収益率は修正総合利回り。

# 1. 2024年度 第2四半期運用環境

## 【市場の動き（7月～9月）】

国内債券：7月の10年国債利回りは、月末の日銀金融政策決定会合における追加利上げの有無に市場の注目が集まる中、狭いレンジでもみ合う展開が続き、月末は1.05%に小幅低下（価格は上昇）しました。8月は、上旬は米長期金利の低下や、急速な円高・ドル安の進行、国内株式の急落などを受けて債券への買いが加速し、一時0.75%まで低下しましたが、その後は株式市場の反発や円高進行の一服を受け0.8%を中心に一進一退の展開が続きました。9月は、米景気指標、日銀の追加利上げや自民党総裁選への思惑等で上下するも、概ね0.8～0.9%の狭いレンジで推移し、月末は0.86%で終わりました。

国内株式：7月は、月前半は米国株式市場の上昇や円安・ドル高基調の継続を受けて、日経平均株価が初の4万2000円台をつけるなど上昇基調で推移しましたが、月後半は政府・日銀による円買い介入の観測やトランプ前大統領の円安・ドル高を問題視する発言から円高・ドル安に転じたことから下落しました。8月は、上旬は米景気後退懸念の高まりや、急速な円高・ドル安などを背景とした市場の不安心理の高まりから、5日の日経平均株価は売りが売りを呼ぶ展開となる中、前日比で過去最大の下げ幅を記録しましたが、その後は円高進行の一服などを受けて反発し、月末は3万8000円台半ばまで戻しました。9月は、月前半は円高・ドル安の進行で下落しましたが、月後半は円高の進行が一服したことや、米国株式の上昇を受けて上昇基調で推移しました。しかし、月末は自民党新総裁の掲げる金融所得課税の強化や法人税引上げなど政策不透明感が意識されたことで大きく下落しました。

外国債券：米国10年国債利回りは、7月は、雇用関連指標が労働市場の減速を示したほか、物価指標の鈍化に続き、FRBの利下げ観測が高まったことで4.0%台前半まで低下しました。8月は、上旬は雇用統計の悪化などを背景とした米国の景気後退懸念からFRBの早期利下げ観測が高まり、3.9%まで低下しました。9月は、上旬はFRBによる利下げ観測などを背景に低下基調で推移しましたが、中旬以降は、FOMCで大幅利下げが実施されたものの先行きの利下げペースが緩やかになるとの見方が強まったことや、米国経済の底堅さを示す景気指標が発表されたことから上昇し、月末は3.78%で終わりました。

外国株式：7月の米国株式は、米国の早期利下げ観測や経済のソフトランディング期待などを背景に上昇基調で推移しました。8月は、月前半は、雇用統計の悪化などから米国の景気後退懸念が高まり、一時的に急落したものの、その後はFRB議長が9月の利下げ開始を表明する中、米国経済のソフトランディング期待が支えとなり大きく上昇しました。9月は、上旬は雇用関連指標の悪化などから下落したものの、中旬以降は、米国経済の底堅さを示す景気指標が発表されたことや、FOMCにおいて0.5%の大幅利下げが行われたことを受け米国経済のソフトランディング期待が一層高まったことから上昇し、月末のNYダウは4万2000ドル台前半で終わりました。

### ◇参考指標

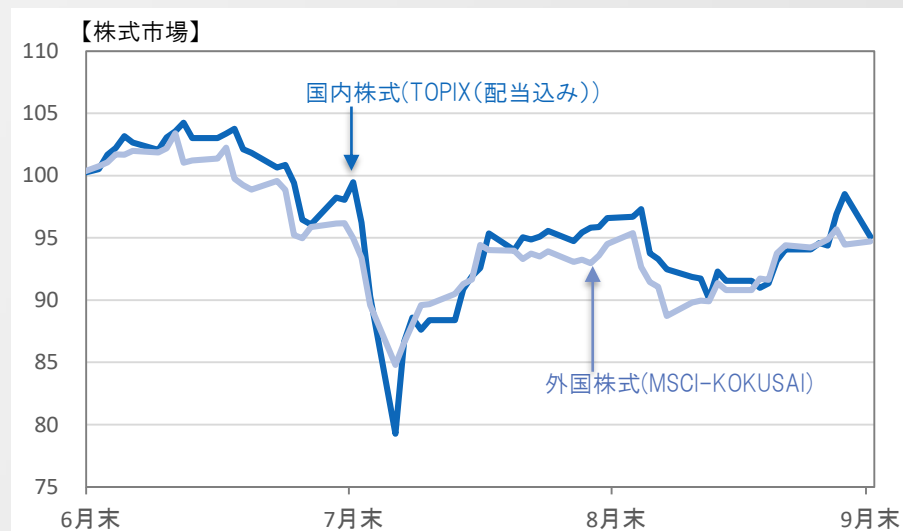
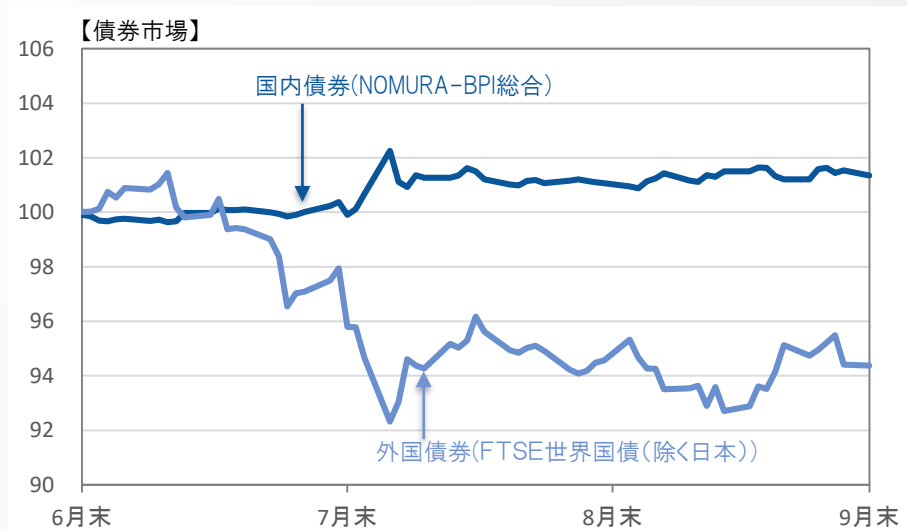
		2024年3月末	2024年6月末	2024年7月末	2024年8月末	2024年9月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.73	1.05	1.05	0.89	0.86
国内株式	日経平均株価 (円)	40,369.44	39,583.08	39,101.82	38,647.75	37,919.55
外国債券	米国10年国債利回り (%)	4.20	4.40	4.03	3.90	3.78
	ドイツ10年国債利回り (%)	2.30	2.50	2.30	2.30	2.12
外国株式	NYダウ (ドル)	39,807.37	39,118.86	40,842.79	41,563.08	42,330.15
	ドイツDAX (ポイント)	18,492.49	18,235.45	18,508.65	18,906.92	19,324.93
為替	ドル/円 (円)	151.35	160.86	150.46	145.61	143.04
	ユーロ/円 (円)	163.46	172.41	162.81	161.17	159.64

### ◇ベンチマーク収益率

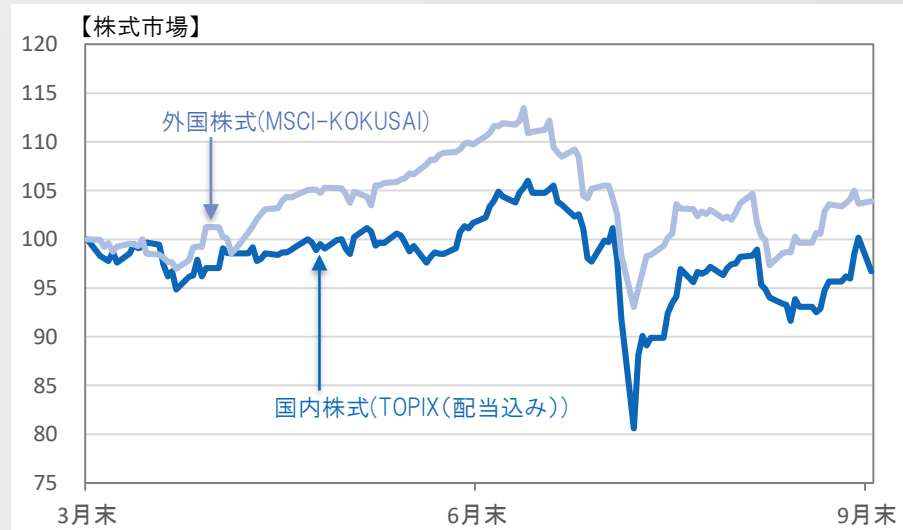
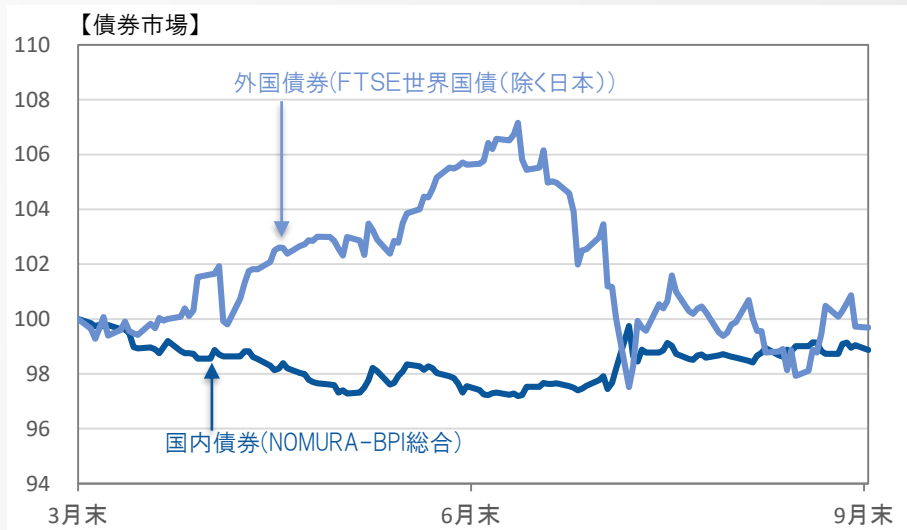
	第2四半期	年度通期
国内債券 NOMURA-BPI総合	1.35%	-1.13%
国内株式 TOPIX(配当込み)	-4.90%	-3.29%
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	-5.63% (2.65%)	-0.31% (1.13%)
外国株式 MSCI-KOKUSAI	-5.30%	3.91%

(注)FTSE世界国債の下段( )内は、円ヘッジベースの収益率

市場ベンチマークの推移(2024年度 第2四半期) 2024年6月末=100とした市場の動き



市場ベンチマークの推移(2024年度 通期) 2024年3月末=100とした市場の動き



## 2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

### (1) パッシブ資産

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	9.22	3.54	-1.27			2.24
国内債券	-1.29	-1.86	1.36			-0.17
国内株式	32.67	4.61	-4.90			-1.42
外国債券	14.88	7.06	-5.62			-0.14
ヘッジ外債	-1.97	0.18	2.71			3.16
外国株式	31.62	13.11	-5.31			5.39
短期資産	0.00	0.00	0.06			0.01

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	375,088	162,542	-59,991			102,551
国内債券	-2,007	-3,494	3,126			-368
国内株式	131,974	22,259	-29,833			-7,574
外国債券	50,311	28,817	-29,428			-611
ヘッジ外債	-27,534	3,145	56,992			60,138
外国株式	222,352	111,824	-60,917			50,907
短期資産	-8	-9	68			59

### (2) オルタナティブ資産

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	7.82	0.83	0.10			0.93
第一生命	3.21	0.10	2.12			2.23
りそな銀行	12.46	1.50	-1.73			-0.26

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	30,489	3,479	441			3,919
第一生命	6,269	207	4,290			4,497
りそな銀行	24,220	3,272	-3,849			-577

(参考) 第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

### (3) 一般勘定

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	1.15	0.12	0.13			0.25

	2023年度	2024年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	4,623	506	511			1,017

(参考) 日本生命：ニッセイ一般勘定プラス

### 3. 運用資産額・構成割合

#### (1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	232,581	5.0%	5%	±2%	±0.0
国内株式	579,208	12.5%	13%	±3%	-0.5
外国債券	494,358	10.6%	11%	±3%	-0.4
ヘッジ外債	2,157,156	46.4%	45%	±4%	+1.4
外国株式	1,085,858	23.4%	23%	±4%	+0.4
短期資産	99,080	2.1%	3%	±3%	-0.9
合計	4,648,241	100.0%	100.0%		—

(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

#### (2) オルタナティブ資産

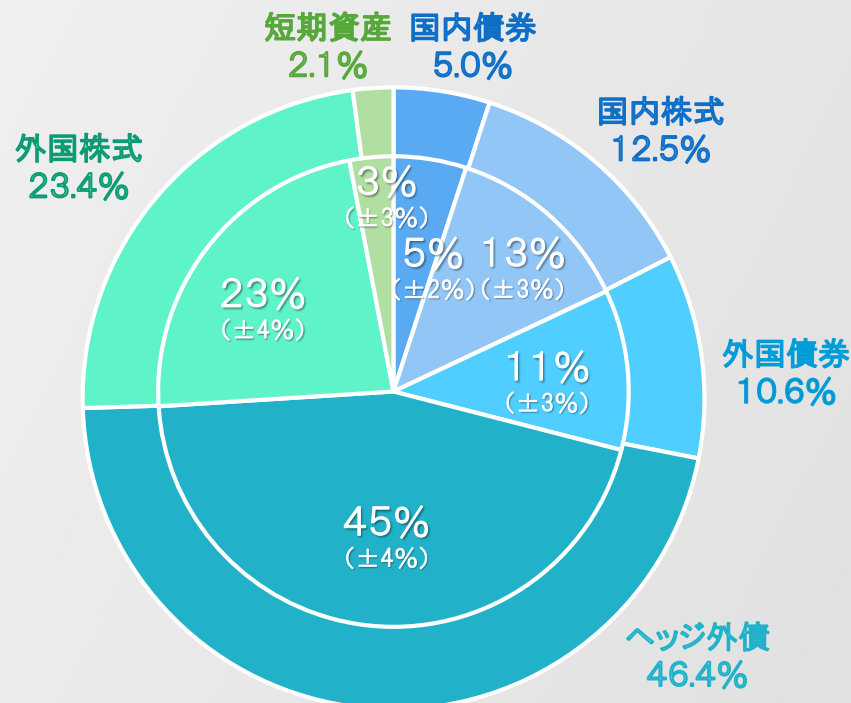
	資産額(千円)
第一生命	206,309
りそな銀行	218,007
合計	424,316

#### (3) 一般勘定

	資産額(千円)
日本生命	406,749

#### (4) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	4,648,241
オルタナティブ資産	424,316
一般勘定	406,749
合計	5,479,306



内側: 基本ポートフォリオ(カッコ内は許容乖離幅)  
外側: 2024年9月30日時点